

桜蔭俳話会 十一月句会 (第三七〇回)

平成三十年十一月二十五日 (日)

会場・旭区民文化センター (サンハート) ①美

内面にある「ヘドニアとユーダイモニア」と、渾然一体の「おでん」との配合が良い。読み手の創作意欲をかきたてられる。

【推薦句】

俺が生き隣が死ぬる秋日和

眞壽

【添削句】

【原句】よく笑ふ膝叱りつつ紅葉狩

才美

お互いの言葉は飛礫秋の暮

幸

【理由】機知の句ではあるが、歩くを連想する季語を据えない。

唇といふ自由不自由文化の日

才美

【添削案】よく笑ふ膝叱りつつ天高し

落ち花梨深き傷より匂ひ立つ

友子

【原句】ステンドグラスへ差し込む冬日マリア像

友子

門標の文字のうすれや夜半の月

幸

【理由】言葉の整理

【修正案】時間を消す。

門標の文字のうすれや冬の月

【添削案】冬日入るステンドグラス聖母像

戦時中モンペ姿の七五三

幸

【原句】遅き帰宅の玄関匂ふ煮大根

友子

【修正案】時代性を消す。切れ字の「や」を入れて今読んでいる句にする。

戦中のモンペ姿や七五三

【原句】禅寺や落葉ひとつのなき小道

ヤエ子

願事を忘れ小春の神参り

才美

【添削案】禅寺や落葉ひとひらなき小道

英単語一つ覚えて冬に入る

明美

【原句】病む友や外泊許可の初時雨

邦子

裂織の音の艶めく萩の花

幸

【理由】切れ字の位置。

【添削案】病む友の外泊許可や初時雨

银杏の指より白く干しあがり

ヤエ子

【原句】煉瓦造りの要塞跡や石路の花

ヤエ子

ひと気なき渚あまたの浮寝鳥

友子

【理由】煉瓦の間の石路の花を強調する。

【添削案】要塞の跡の煉瓦や石路の花

体調のすぐれぬ日々や冬来たる

かほる

【原句】桜紅葉自然の驚異はさむ本

ヤエ子

忘れまじ旅のつづきの寒北斗

才美

【理由】自然の驚異を感じたのであろう。

【添削案】冬紅葉「自然の驚異」はさむ本

垣ごしの返り花まで予後の旅

才美

【原句】マスクする待合室の二十人

かほる

ヘドニアとユーダイモニアおでん食ふ

かほる

【理由】人数の特定は難しい。

【添削案】振り向きしマスクの人やカウンター

【感想】知識量が豊富な先駆的な句である。人間の

【原句】短日や故郷に残る義母一人

邦子

【理由】俳句では「義母」「義父」とは言わない。

【添削案】短日や故郷に残る母一人

【原句】不動尊は溪谷の果て花八手 友子

【理由】言葉の言い換え

【添削案】溪谷の果ての仏や花八手

【原句】軍港やおやじバンドの音秋天 ヤエ子

【理由】音は不要。

【添削案】軍港のおやじバンドや秋高し

【原句】誕生日の届かぬ想い月仰ぐ 直子

【理由】天地を変えてみる。

【添削案】月仰ぐ人にそれぞれ誕生日

【原句】秋潮や巨大軍艦浮かせをり ヤエ子

【理由】言葉の整理。

【添削句】軍艦の巨大化やまず秋の潮

【原句】小春日やバス停ベンチシニアたち ヤエ子

【理由】言葉の整理。

【添削案】バス停のシニアの杖や日向ぼこ

【原句】岬村ガードレールの干大根 友子

【理由】言葉の整理。

【添削案】岬へとガードレールや大根

【原句】冬隣リストラ上手ゴーン氏や 直子

【理由】言葉の整理

【添削案】リストラの今は我が身や冬の月

(文責 代表 増田守)

(欠席投句 古野明美、恩田才美、京林眞壽、松浦

かほる)